



今年の教区の目標

ゆいまーるの心で
あらゆる絆を深めよう！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2021年2月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第747号 (2月号)

2021年
教区の日

聖マリアの汚れなき御心、 私たちのために祈ってください

また、真栄原にある聖ドミニコ宣教師修道女会の寺田陽子シスターが修道誓願五十周年の金祝を迎えます。

今年、普天間修道院に在籍し、スペイン語を母国語とする人々の司牧に取組んでおられる、カプチン会のパトリック・サリバン神父様が司祭叙階五十周年の記念日を迎えられます。

毎年二月十一日は那覇教区創設の記念日として感謝の祭儀が執り行われ、その年に記念日を迎える方々に、司教から特別な祝福を頂くのが慣わしとなっています。



那覇教区の保護者
「聖マリアの汚れなき御心」
私たちのために祈り下さい

今年、普天間修道院に在籍し、スペイン語を母国語とする人々の司牧に取組んでおられる、カプチン会のパトリック・サリバン神父様が司祭叙階五十周年の記念日を迎えられます。

信徒の金婚式は、コザ教会の金城昇・愛子ご夫妻と松堂彰・康子ご夫妻、泡瀬教会の原功・信子ご夫妻、小禄教会の名富忠夫・かおるご夫妻、石垣教会の玉城功一・文子ご夫妻がお祝いの祝福を受けられます。

信徒の金婚式は、コザ

文も主任司祭たちに配られ、共に心合わせて祈ります。創立記念日を迎える教区のため、また今年お祝いを迎えられる方々のために私たちも心一つにお祈りいたしましょう。

毎年当たり前のように過ごしてきたあらゆる事柄が、当たり前のことではなかったことに気付かされ、国からの緊急事態宣言を受け、ミサの中止も余儀なくされたり、大切な儀式が行えないという経験もさせられました。それでもコロナはまだ収まっています。

本年一月二十日付けで司教様から次の要請が出ています。

一、県内外への渡航、特に緊急事態宣言の出た地域との往來を控え、やむなく渡航した場合は2週間ミサへの参加を控えてください。

二、寒い時期ですが換気に特に気を付け、集会時

今後ともこれまでの取組を更新しながら、祈りのうちに「感染しない！させない！」も含めて、キリスト者としての使命を果たして参りましょう。

三、主日のミサへの参加義務の免除は継続されています。だれでも、特に高齢者や体調不良の方は、無理せず参加を控え各人で可能な信心業(口ザリオなど)によって霊的生活を保ってください。

四、もし、主任司祭と教会役員によって十分な感染防止対策をとることが困難と判断される場合は、司教との協議により公開ミサを休止することもできます。



「カリタス那覇」・「ゆいまるBOX」について（紹介）

カリタス那覇委員会より

みなさん、こんにちは。私たち「カリタス那覇」は、那覇教区の有志が活動する社会奉仕の会です。「カリタス那覇」は、カリタスジャパンと連携し、国内外の貧困問題に関する啓発活動や困窮者への支援を行うことを目的としています。

①昨年 9 月から各小教区に「ゆいまるBOX」の設置を依頼し、保存可能な食料品の寄付を募りました。

集まった食料品は、民間の支援団体をとおりて困窮者に支給されています。

この度、新たにカトリック文化センターにもゆいまるBOXを設置しました。これは寄付物品の募集と同時に、皆さんの友人、知人等身近な方で支援を必要としている方々への直接配布のための場でもありますので、各小教区では支給品を受け取りにくい方々のためなどにもどうぞご利用下さい。さらにここを民間の支援団体（ゆいまるの会）への寄贈に至る最終の集積場所としますので、もし各小教区からの寄付物品の大量搬入等があれば、教区事務所（マーシー）に電話連絡の上、搬入ください。

②文化センターでの配布場所設置にあたり、配布日を設けさせていただきます。

●毎週月曜日と木曜日の午後 2 時から 4 時までの時間帯

●お米・缶詰・乾物・その他食料品・日用品など多数在庫あり➡（写真右）

※支給品については臨機応変に対応いたしますので、支援を必要としている身近な方のためにも食料品を受け取りに来て頂けると幸いです。

③今後の活動は以下のような流れで進めて行きます。

（小教区での募集・配布→文化センターへ集積・配布→民間の支援団体に寄付）



カリタス那覇 結〇(まる)
Moving Car の活動状況

←委員会メンバー(一部)

販売・周知・啓発活動中➡



④その他の活動計画案として、四旬節の期間中に「カリタス那覇 結〇(まる) Moving Car」として小教区を回りたいと考えています。カリタスジャパンの募金活動も毎年行われていますが、あまり寄付金が集まらない状況が続いていますのでゆいまるボックス活動とあわせて、直接信徒の皆さんに四旬節キャンペーンの啓発活動をしたいと考えています。信徒のみなさまにおかれましては、「カリタス那覇」の活動に御理解いただき、ムービングカーが小教区を訪問する際には食糧品の寄付、雑貨の購入、募金等にご協力いただけますようお願い申し上げます。

カリタス那覇委員会

Caritas Naha Yuimaru Moving Car Campaign

Caritas Naha a diocesan social action service committee launched last December the “Caritas Naha Yuimaru Moving Car” campaign. The process of Yuimaru Moving Car is to go to parishes together with the Diocese Catholic Store (Bunka Center) goods, this campaign aims to get some donations in goods or in monetary form to support the Yuimaru Box that have already started last September supporting a small organization “Yui Maru no Kai” food drive. But we feel that our members of the community will not be able to come at Makishi park where the Yuimaru No Kai is distributing some goods. For this reason the Caritas Naha thought of making a food drive available for our members of the community or people whom we know are having difficulty just to get by in this time of pandemic. The box will only have non-perishable goods such as rice, can goods and different kinds of instant food that comes from the generosity of the donors. It will be set-up at the Catholic Store (Bunka Center) starting this month of February every **Monday and Thursday only at a specific time between 2 p.m. – 4 p.m.**

We will still cooperate and support the Yuimaru No Kai hand in hand supporting our members of the community and those whom we know are really having a hard time. For this reason Caritas Naha Yuimaru Moving Car may visit your parish coinciding with the Caritas Japan Lenten campaign this season of Lent. We ask for your cooperation and understanding on our aim to help our brothers and sisters in need in the Okinawan spirit of Yuimaru (the spirit of cooperation).

Caritas Naha Committee



変化は自分の 内側から始まる

アジット・ロドリゲス神父

石川教会 主任司祭



ちよつと軽めの話から。
カプチン会の司祭のお話を
したいと思います。

皆様よくご存じかと思
いますが、カプチン会のカン
タラメッサ司祭が今、バチ
カンで教皇様、枢機卿様に
説教および黙想会を行って
おります。この神父様のお
話はとても深く、わかりや
すいものです。

ある日、カンタラメッサ
司祭が、黙想会終了後バチ
カンから自分の修道院に戻

られたとき、カプチン会の
同じ仲間の司祭から、「あな
たは、バチカンで枢機卿に
説教をなさっておりますが、
あまり回心したようにはお
もえませんか」と言われま

した。カンタラメッサ司祭
はこう答えました。「私も長
い間そう思っていました。
いくら準備して説教をして
も誰も変わらないと。でも、
今はそう思いません。今は
自分が変わるために説教を
準備しています。自分自身
に説教をしています。私自
身を変えたいと思っています
」と答えました。

アシジの聖フランシスコ
もカンタラメッサ司祭と同
じように、神様より教会を
立てなおすようにといわれ
た時、外側の建物のことだ
と思つて、みんなと石を集
めて教会をなおしました。
しかし、のちに建物のこと
ではなく、人の心が神様に
向かうように立て直してい
くことだと感じました。そ
れには、まず、自分自身が
神様に向かわなければ、人
の心が神様に向かうように
立て直すことはできないと
気づきました。

自分以外の人を変えるの
ではなく、自分自身が変わ
ること。これがすべての模
範となることだと思います。
現在、世の中において、神

様を求める人はたくさんい
ると思います。しかし、現
実は若者の教会離れ、新し
い信徒が増えない、召命も
少ない、教会に魅力がなく
なっている、ということが
起きています。これはどう
いうことなのでしょう？

私からみると、教会内に
おいて、自分自身を変える
ための模範となるモデルが
増えたら、今の状況を一步
でも前進させることができ
るのではないかと思ってい
ます。自分の外ではなく内
を変えることが大事だと思
います。

ナイジェリアの枢機卿様
は、なぜ若い人が司祭、シ
スターになる人が少ないの
か？ 自問をしていました。
子どもが少ないのが主な理
由かと思っていました。しか
し、マザーテレサの修道院
に行ったとき、マザーに「な
ぜ、教会に司祭やシスター
になる人が少ないのでしょ
うか？」と質問したところ、
マザーは「私の修道会では
そういうことはありません。
むしろシスターの志願者（し
がんしゃ）はたくさんおりま

す」との返事でした。これ
に枢機卿は驚き、「これはど
ういうことだろう？」とそ
の時はわけがわからなかつ
た。

バチカンに帰ったのちに
マザーテレサの言った言葉
「私の修道会ではそういうこ
とはありません。むしろ、
シスターの志願者はたくさ
んおります」の意味に気が
つきました。調べてみると、
マザーテレサの修道会は一
〇八の国に広がっていました。
それはやはり、マザー
テレサがキリストの模範と
してモデルケースとしてそ
こにいたから、皆がそこに
あこがれたから志願者が増
えていったのだと枢機卿様
が気づいたのでした。

マザー自身も、自分の修
道院から出て、自分自身を
かえることでキリストにと
もに歩み、皆の模範となり
ました。私たちもできるだ
け、自分を変えていけば模
範になることができると思
います。

2021年1月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2021年1月12日(火) 10:00~11:30 開催場所: 教区センター

※会議に先立って先月会議で提案のあった、共に祈る集いとする為に、聖体賛美式に与り、昼の祈りを共同で唱えた。

1. 報告及び連絡事項: 司会・フランシス神父

- ・前回(12月会議)の議事録の確認—新田。
- ・1月10~11日、大分教区長・浜口司教様の追悼ミサに参列されたウェイン司教から報告が行われた。今回は11名の司教様たちが集って共同司式して祈ることができたが、19日に予定されていた、前東京大司教区岡田大司教の追悼ミサはコロナ禍の緊急事態宣言を受けて延期されることが合わせて報告された。
- ・那覇教区に滞在されている坂上神父について、現在小祿のカプチン会修道院に滞在中だが、来年度から正式に那覇教区での任務に就く予定であるため、各小教区で紹介を兼ねて招いてミサをしてもらうことができる旨ウェイン司教から報告と依頼がなされた。
- ・1月26日(火)に予定されている教区顧問団と責任役員会の合同会議について、ウェイン司教から、難民、移住、移動者の問題に関連して、教区としてどう取組んでいくかが議題として扱われること等が報告された。
- ・ウェイン司教の出張予定について報告が行われた。2月1日~5日にかけて修道会総会の進行役として茨城県へ行くのは、前年からの約束で断わることができず出張することとなった。また、2月15日~19日にかけて行われる定例司教総会は Zoom を使った開催となり東京へ出向くことなく、会議が行えることが報告された。なお、2月22日~25日にかけて与那原で行われるカプチン会の日本地区総会へも進行役として参加されることが報告された。
- ・コロナの終息が見通せない現況では各司祭たちや教会を利用した信徒や一般の活動については、特に換気に十分に気を付け、大勢での密な集まりは避けること、また教会での会食は厳に慎むようウェイン司教から要請があった。
- ・前項に関連して「灰の水曜日」に額に記す十字架の印についての質問があり、接触を避けるための工夫(灰を一つまみ頭にふりかけるなど)をして、典礼に臨むよう要請があった。
- ・今回から始まった聖体賛美式や祈りは、9時半開始、当番の司祭が内容を考えて行われることが提案され、了承された。
- ・ウェイン司教より、引退された司祭たちの現況の報告があり、それぞれ元気に過ごしておられるが、課題についても報告があった。教区に対して老健施設や療養所の要望も寄せられているが、現時点で教区としてはその力がないこと、様々な課題が出てきており1つ1つスタッフや顧問会、小教区の力も借りながら、教区目標とした「ゆいまーの心で、あらゆる絆を深めよう」の精神で課題に取り組んでいくことが報告された。

2. 審議事項

- ・前回の会議に続きスピリチュアルレポート「現勢報告書」について津波古事務局長より説明が行われた。12月31日時点での教勢を記入して1枚を提出、複写の1枚は小教区で保管することや、修道会にお願いする記載は別用式となるので注意が必要であることなどが説明された。1月29日(金)までに提出するよう依頼があった。
- ・各小教区でまとめる決算、予算についても津波古事務局長から説明が行われた。各小教区の会計担当者、会長、役員さんたちとも協議の上、2月25日(木)までに教区に提出していただきたい。また、ローマ分担金も2019年度の収入に応じて、その8%を今月中に支払いされることや、会計責任者は司教となるので、正しく記載されるよう要請が行われた。さらに、司祭生活扶助費分担金の一覧表が配られ2月中に教区宛振込みされるよう依頼が行われた。
- ・2021年教区の日についてウェイン司教から説明が行われた。司教主式のミサは2月11日(木)の午前10時から安里教会で捧げられ、パトリック神父(カプチン会)とシスター寺田(ドミニコ会)の金祝を祝う。しかし、コロナ禍もあり密を避ける意味でも、「教区の日」のミサは各小教区での分散開催とし、可能な限り同時に教区のためにお祈りしていただくと共に、お祝いの該当者も所属する小教区のミサで、主任司祭から祝福していただくよう要請があった。教区に報告のあった金婚祝の該当者には教区からの記念品を主任司祭を通して贈呈する。なお、祈願文は同じものが使えるように典礼担当者が準備することも付け加えられた。
- ・マーシーさんから「カリタス那覇」の活動報告が行われた。カリタス・ジャパンや県内の民間団体との活動や支援を継続しながら、カリタス那覇としての独自の取組みも文化センターを拠点に継続していくことや、各小教区を回って様々なニーズや支援の取組みの工夫等も考えていきたい旨報告があった。
- ・同じくマーシーさんから、2月の司教予定の確認が行われた。小教区への司教訪問の日程調整等、小教区で話し合っただけで早目に司教の予定を調整されるよう要請があった。
- ・ウェイン司教から、司祭たちへ休暇の取得について要請が行われた。コロナ禍で昨年休暇が取れず、今年コロナが落ち着いたら2年分の休暇が申請できるかどうかの問合せがあったが、取れなかった年の休暇は返上して、新しい年の休暇のみを利用されるよう要望があった。
- ・教区内に暮らす難民・移住・移動者のケアについてウェイン司教から要請があった。教区が直接取組むのは難しいが、福音宣教の一環として、地元の行政や民間団体と協力して取組めることはないか、小教区単位でできることはないかを話し合っただけで欲しい旨要請された。担当司祭を置くのも1つの手段であるが、顧問会や役員会にも諮って提言していきたい旨報告があった。

2021年1月19日

記録: 新田 選

承認: ウェイン・フランシス・バートン司教

私は終戦後、テニアンから父と幼い三姉弟で石垣に帰ってきました。戦後のきびしい人生を歩みました。私と教会の出会いのお恵みは二十代後半に頂きました。石垣教会が「海星カトリック教会」と呼ばれていたころです。

海星幼稚園が落成されて園児さんは百名近くおり、教会は地域に開かれた宣教活動がシスターも共に活発に行われておりました。私は未信者でペトロ神父様の英語のク

ラスに通っているうち、勧められて公教要理を勉強し、一九六六年のクリスマスに十名の方々と共に洗礼の恵みを頂きました。代母は、昨年

金祝のお祝いをいただいた、石垣幸子さんのお母さんです。後に、シスターになられた仲大底利子さんも共に受洗しました。

私はミサだけでなく、よく教会に足を運びました。古いお聖堂は畳敷きで、山田真山画伯の「海の星なる聖マリア」の絵画が飾られ、ご聖体との距離が近く自分を包んでくださる場をいただいたのです。ひとりです。青年会活動も盛んで、戦後きびしい生活の中で、ひとみしりで引込み思案の私は、楽しい信徒生

活を送らせてもらうようになりました。

教会へのご奉仕の始まりは、典礼奉仕の「生花の準備」でした。先輩の玉那覇鶴さんは、祭壇をお花で飾ることの意味をわからない私に、やさしく、最初は一緒にお花をさがしに行こうと誘われてついていきました。

当時は今のように花屋さんはありませんので、庭や野にあるその季節の花々を摘み取って飾りました。今でも、教

たて軸よこ軸

典礼奉仕の心で生花準備

石垣教会 山城

ひろこ
洋子

会の庭は花々の宝庫です。玉那覇鶴さんが、毎週ひとりで黙々とされる姿に頭が下がりました。その奉仕の姿はマリア様の模範にならう姿ということがわかるのに長い時間かかりましたが、一番最初に奉仕の姿を示してくださいだったので。お花の上手下手ではなく、マリア様の助けを願ひながら奉仕の心を深めていきましよう、と私に呼びかけ教えてくださったのです。

さりげない会話が、お花のご奉仕を繰り返す中で、一般の生け花と違うところも教えていただきました。「典礼暦

年と花」では、「待降節」「四旬節」には、お花は飾らない。ふさわしい節度を持つて飾る。毎週、まず、お花を置くのにふさわしい場所はどこがいいのか、祭壇の周囲が第一の主要な場所であること、生け方の工夫は、典礼の季節、祝祭日、福音の内容をイメージしながら。花は、沈黙のうちにその清さと美しさをもつて創造主である神様とともに賛美しますと語りかけるように、よく話

されました。

シスター方からも、典礼が行われるのにふさわしいものか、これがお花当番の目と構えだと、折に触れアドバイスもいただきました。振り返りますと、教えられたとおり、準備して生けるのがなかなか難しく、反省ばかりでしたが、奉仕に行かせていただくことで、それが、日常生活へ広がって行き、奉仕の輪が隣人愛の行いにまで広がって行くよう心掛けました。

時代は移り、私も、年を重ねて受洗五十年目を迎えます。八重山修道院のシスター方を感謝とともに思い浮かべます。教会のお花当番は、これからもチームワークで成り立っていきます。

教会の歴史を語り継いだ先輩方のゆいまるの姿を受け継ぎ、これからもお花の奉仕活動を続けていき、コロナ禍にあるからこそ、お花に願いを託し

創造主である神様を賛美したいと思えます。

いま私は、子ども達の安全管理「地域のこども見守り隊」として、黄色い旗を持ち、子ども達の通学路に立っております。今は、コロナの収束の願いをこめての地域活動であり、奉仕活動です。この活動は神様の救いの業に奉仕するためのもので、マリア様の助けを願い、立っております。

教会の生花準備のお恵みをいただいたことを感謝しつつ、これからも続けさせていたただきたいと思えます。

洗礼

おめでとございます

真栄原教会

二〇二〇年十二月二十四日

セシリア

蓬萊さくら

ジョセフィヌ

国吉さくら

開南教会

二〇二〇年十二月二十五日

マリアミカエル

與那嶺博信

ガブリエラ

宮田 遥月

ベネディクト

宮田 惟令

石垣教会

二〇二〇年十二月二十七日

ミカエラ

金城 紀乃

泡瀬教会

二〇二一年一月十日

ガブリエル

屋良 海璃

レイ司教の琉球での最初のクリスマス・ミサ②

(翻訳・押川壽夫司教)

ご降誕の二回目のミサは、三・五マイルほど離れた浦上という村で行われました。米軍基地から提供されるジープが私を連れて行くことになっていましたが、約束の時間を守ってくれません。仕方がないので、歩き始めることにしました。早朝、名瀬湾を囲むように曲がりくねった道を歩くのは気持ちがいい。浦上は二つの村のうちの一つで、山を登らなくてもたどり着くことができます。もうすぐ目的地だという頃に、ジープが来る音がした。運転手は、目覚まし時計がどうのこうのと、謝罪ばかりしていた。私は彼の謝罪を快く受け入れ、主が私の声を聞いてくれることを願った。

数分で浦上に到着し、ジープから飛び降り、ガタガタで穴だらけの古びた橋を渡り、二百ヤード歩いて教会に着きました。隣の大熊村や、山の向こうの芦花部村からも信者たちが来ていました。

ミサは典礼の規則に沿ったものではありませんでした。始まりはまあまあ良かったのですが、サンクトゥス（聖なるかなの歌）にな

ると聖歌隊がサンクトゥスを歌うのを待っていました。何も出てきません。代わりに他の賛美歌が歌われました。それで降は賛美歌ばかりでした。キリエ、グロリア、クレドは十分に歌えていたのですが、聖歌隊はこれらのパートを歌えるとは思っていませんでした。



奄美大島のレイ神父とオーバン神父(右)

す。ミサのために、彼らはある学校から小さなオルガンを借りてきていました。オルガニストが猛烈な勢いで演奏しても、一度に一音以上の音を出すことしかできませんでした。人々は気にしませんでした。ミサはいつもよりも厳粛なものだった。結局のところ、それだけが重要だったのです。

私の三回目のミサは名瀬で行わ

れるので、ミサが終わるとすぐに急いで帰らなければなりません。このミサは私の小さな家で行われました。着いてみると、私の部屋にはすべてのものが片付けられていました。部屋の両側のふすまは取り外されていました。人々は至る所に陣取っていました。こんなに人が集まるとは思いませんでした。子供たちと数人の年配者を除いて、全員が真夜中のミサに参加していました。これは普通ミサ（歌ミサではない）でした。ミサが終わると、人々は私にメリークリスマスの挨拶をするために残りませんでした。十一時半

になってようやく一人になることができました。

その日の残り時間は、軍のアメリカ人将校と一緒に基地での夕食会に参加したという珍しいクリスマスの一日でした。アメリカの典型的なクリスマスディナーで、みんなにプレゼントが用意されていました。軍の従業員全員が招待されていたので、その数は百人ほど

で、大騒ぎになりました。夕食後には、将校への感謝の気持ちを表すための余興として、従業員たちはダンスや歌を披露しました。

その日の夜は、学校のホールで市民のプログラムがあり、私も参加しました。それはこどものためのお祝いでした。ここでも踊りと歌がありました。カトリックの少女少女たちはクリスマスソングを歌い、プロテスタントの人々は自分たちの歌をいくつか披露しました。それ以外のプログラムは宗教的なものではありませんでした。しかし、子供たちにとっては楽しい夜となりました。プログラムは六時半から始まり、十時半まで続きました。子供たちは長い娯楽をとても喜んでいました。

私にとって、ようやくその日が終りました。その夜、ベッドに入ると、私の頭の中は初めてのクリスマスのことではないでした。カトリック教徒にとっては、それは一年で最も素晴らしい日です。他の人にとっては、クリスマスはただの仕事の日にすぎませんでした。私は、人々がクリスマスの意味を知らないことに愕然としました。そして、私は、いつの日か、もう一つのクリスマスを賛美歌やスピーカーとアンプ付きの電気蓄

音機を使用して馬小屋の幼子のこととを説明しているのを夢見ていました。ベトレヘムの物語がドラマ化されるだろう。しかし、これは単なる夢に過ぎないが、私が確信しているのは、クリスマスの意味を説明するために、どんな多くの話よりももっと多くのことをする夢があるのです。

名瀬の人口二万人の中でベトレヘムの幼子を知らない人が一人もいなくなるだろうと。これは、あくまでも夢の中の話です。しかし、宣教師の人生の約九十%は夢で占められています。そのいくつかは現実のものになるでしょう。他はただ記憶に残るだけ。未来だけが運命を明らかにすることができません。

私のこの話は残念ながら、復活祭の頃に届くだろう。しかし、その日は船がほとんど出ていない。冬の海は荒れているし、船はあまり大きくない。その上、石油も不足している。

こういう事情で、この手紙が長く遅れていることをお許しください。私はあなた達を忘れてはいません。神のご祝福とご加護がありますように祈ります。

皆さんにメリークリスマス！

フレリックス・レイ神父

教區
NEWS
教會

県民クリスマス開催

県民クリスマス実行委員

十二月十三日（日）、第三十三回県民クリスマスが北中城村の石平交差点を会場に開催されました。例年は各地の教会堂等で開催していましたが、今回はコロナ禍とあつて、屋外でのプロگرامになったものです。

初めての試みとあつて天候や
駐車場、コロナ感染予防対策、
照明、音響等、配慮すべきこと



も多くあり、実行委員も参加者も戸惑いながらの進行でした。カトリック、プロテスタント各教派から集まった約七十名の参加者は、聖書を読み、共に歌い、平和のメッセージに耳を傾けました。

途中、道向かいの米軍基地内
住宅から親子連れが数組見学し
ていて、子供たちがクリスマス
ソングに関心を持って見ている
様子は微笑ましいものでした。
いつかこの金網が取り払われて
手を携えて共にクリスマスを祝
うことができれば、との祈りも
捧げられました。

最後には「ハレルヤコーラス」を声高らかに歌い、それぞれが大きな喜びに満たされて家路につきました。(山田圭吾)

司祭叙階十周年記念のミサ
と待降節黙想会

石垣教会

十二月十四日に主任のマイケル神父様は司祭叙階十周年を迎えますので、前日の待降節第三主日(十二月十三日)に感謝を込めて御ミサを捧げ、同日に待降節の黙想会と赦しの秘跡も行いますとのお話がありました。今年は自分たちの教会の神父様に黙想会のご指導をいただくことになりました。

感謝のミサでの説教は「奉獻の

恵み」、十年間の使命や神様のまなざしをどのように受け留めてきたかを話され、私達の心に届くようにと二つの詩にまとめて語りかけてくださいました。

第一の詩「奉獻という恵みに」

一、私が主にふさわしくなくとも
主はこの私を愛へと招く
その恵みは春の雨のよう
そつと優しく注がれる

二、私が人生の旅路でつまづいても

私の心を慈しみて満たしながら
三、嵐の日も雨の日も

四、主は私から離れることなく
命の泉へ呼び寄せる
主が力づけてくださる
主の道を何度も拒み

四、主の道を何度も拒み
逆らうことさえあつても
主は両手ですべてを受け入
私を慰め守つてくださる

第二の詩「十年という賜物」

一、主は取るに足りない私を奉獻生活へと招きいれ
召し出しを待つ私を
愛と優しさで導いた
二、主に従つてきた十年は
多くの犠牲を伴つた

いつしかそれは歌声となつた
主の恩恵が豊かに注がれて
三、十年間主に不実だつた私に

主はいつも寛大であつた
奉獻生活を全うできるように
十年を通して祈り続けた
四、主は氣弱い私を見守る

どれほど季節が廻ろうとも
晴れても曇つても

五、一生涯主の御声「はい」と答へ奉獻の喜びで福音宣教の使命を果たし多くの人を主の許へ連れてゆく

私が頂いた十年の恵みのうちに
(マイケル・ヴィン神父作)

二つの詩を朗読され、「神様への賛美と恵みを喜びにして生きましょう、『信仰は信・望・愛』の心です」と結ばれました。

黙想会では、「聖靈様の導きによつて赦しの秘跡に今近づいて、まず心から神様に立ち返りましょう」と講話が始まりました。

〈回心について〉

「神様だけに打ち明ける回心は、反省だけでなく、良い点を振り返る事でも、自分の生活がはつきり見られるし、新しい生活を送る決心を神様はくださるのです。神様の大きな愛、御計画は聖書の系図からも気付きます（マタイ一・二〜十七）。アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、正しいものの、

悪いものも同列に記述されています。女性五名の中の一名、マリア様を特に祝福されています。

時代を超え、途切れることなく注がれた神の愛の頂点としてお生まれになったのがイエス様である。神様は凄く、神様のなさり方は、常にすべてを受け入れて、悪しきものも良きものにされます。系図はキリストの再臨図です。神様のメッセージを感じます」と講話されました。

〈告解の準備について〉

「祈りの内に自分の信仰生活を省みましよう。告解はカウンセリングとは違います。神様の御前の私、自分の身近な人たち、社会の中で、教会と私を振り返って見ましよう」と、具体的にお話しくださいました。私たち信徒は、主任司祭の黙想会に与って、主イエスの誕生をお祝いするための霊的準備をさせていただきました。

小さな石垣島は今回のコロナ禍の中で、教区から示された指針に従い、黙想会と赦しの秘跡を通して、喜びの日を待ち望む待降節を過ごす事ができ、深く感謝いたしました。

翌週、神父様の十周年をお祝いして信徒からの「霊的花束」と、感謝をいっぱい詰め込んだ靴下をプレゼントしました。

(河口儀子通信員)

那覇教区青少年・青年部ミサ

去る十二月二十七日(日)の午後三時から、ウエイン司教様主式で那覇教区青少年・青年部ミサが執り行われました。コロナ禍の状況ではあるが、教区の青少年担当司祭ヨアキム神父様の「将来の教区の宝の為に、でき得る感染症対策をすれば、ちよつとしたゲームもして顔と顔を合わせる事で喜びを共有できるのではないか」との提言の元、ウエイン司教様始め多くの保護者から提案もあつて実施しました。

この日の為に来沖していた長崎教区所属の神学生をメインに、ミサ後に商品券等の景品付きのジャンケン大会をして心を通わせ、サマキャンで培った絆を確認し合う事ができました。

景品の為の資金はヨアキム神父様や首里教会の信者さんが援助してくださり、子ども達や保護者の皆さんが大いに楽しく過ごす事ができました。

(新田星)

那覇教区で過ごしたクリスマス

長崎教区神学生

十二月二十七日に安里教会で青年部ミサが行われました。新型コロナウイルスの感染予防対策として検温、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスなどの対応を取り、ウエイン司教様の司式のもとミサが行われました。

私は初めて出身教会以外でクリスマスを過ごしました。教区は違っていますが、同じ信仰を持っています。もっと大きく言えば、世界中でイエス様の誕生をお祝いしています。

今回、那覇教区でクリスマスを過ごして私自身の信仰を確かめること



ができました。

私は幼稚園の子どもたちにイエス様の誕生日に何を捧げますか?と問いかけると「お祈り」「いのち」との答えが返ってきました。皆さんは、クリスマスに何を捧げたでしょうか。

私は喜び、怒り、哀しみ、しみとあったすべての感情、あるいは心

を捧げることが本当のクリスマスだと思います。

二〇〇〇年前に一度イエス様はお生まれになりましたが、あとひとつ私たちが待ち望んでいることがあります。それは、キリストの再臨です。

キリストを信じる私たちは一年中待降節を過ごしていると考えるのかもしれませんが。世界中のキリスト者と心をひとつにすることができるよう祈ってまいりましょう。

(吉原祐則)

計報

◆安里教会

マルガリータ・マリア 與那城 洋子 様
二〇二〇年十二月十一日 帰天享年八十歳



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうな会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

